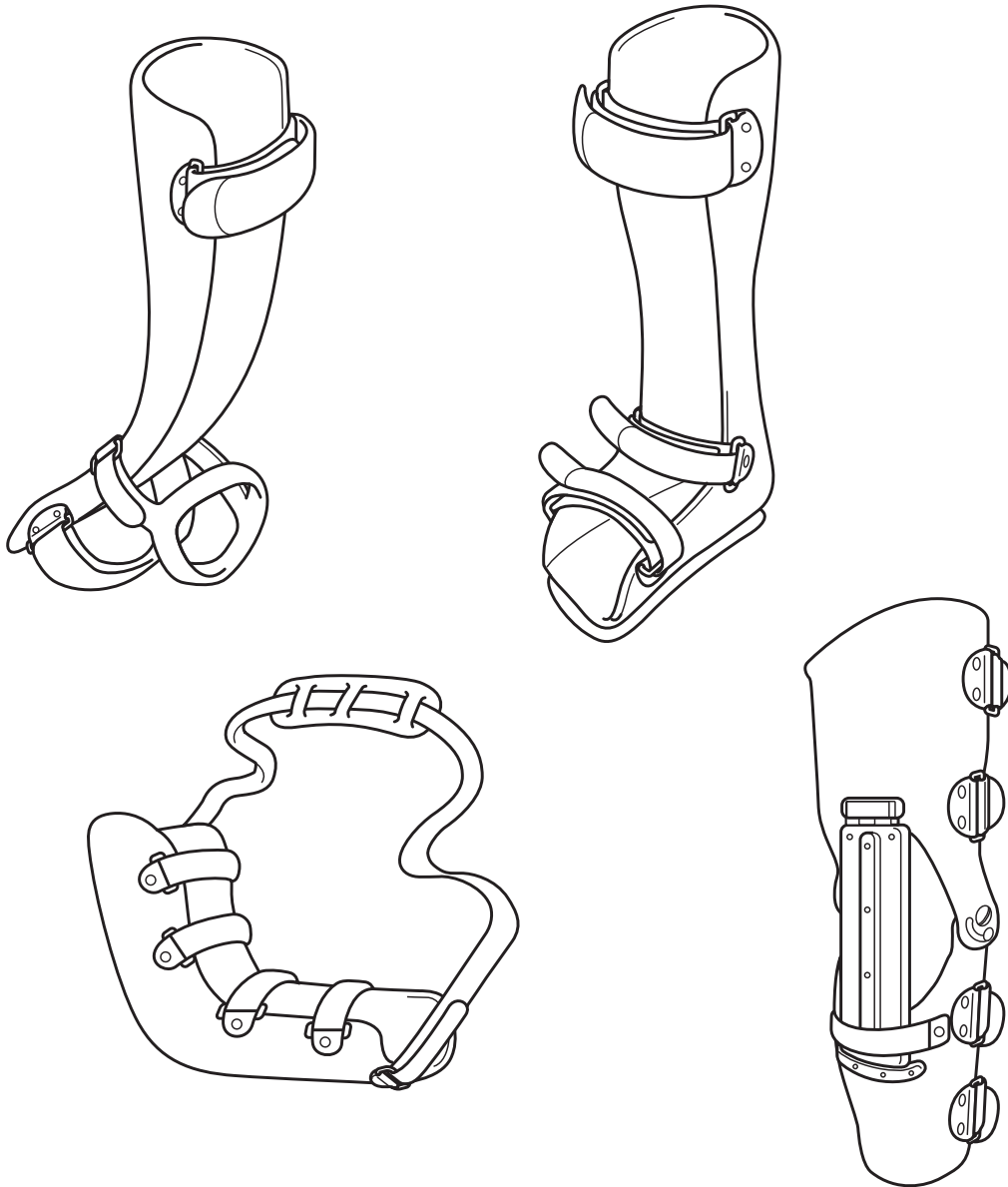


片マヒ体験用 模擬体験装具 取扱説明書

本装具管理者・装着者向け

この度は、弊社の製品をご購入いただき誠にありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みいただき、製品を正しく安全にお使いください。
お読みになられた後は、保証書とともに大切に保管し、必要に応じくりかえしお読みください。



1. 安全にご使用いただくために



警告

誤った使い方をしたときに、死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 肘や膝・足関節において手術経験のある方や現在痛みやしびれがある方は病状が軽減するあるいは完治してから使用してください。
- 模擬体験は必ず2人1組で行い、動作に危険や不安を感じたら、無理をせず使用を中止してください。
- 本製品を無断で修理、改造、調整しないでください。
- 使用目的以外のご使用はしないでください。
- 本製品に破損・異常が発生していないか、ご使用前には必ず各部を点検してください。
万一、破損・異常が発生した場合、又は発見した場合は、そのまま使用せず、必ず弊社までご連絡ください。
- 本装具を日常的に装着しないでください。本装具は、疾病や事故等による障害の発生を室内（階段付近を除く）で模擬的に体験するためのものです。大きさや形状、その他の部分において装着者に適合していないことが考えられるため、日常的に長時間装着すると痛みやキズが発生する恐れがあります。
- 使用にあたっては、感染症等の予防のためスプレー式のアルコール消毒剤の使用をお勧めいたします。
- 装着部に発赤やかぶれ、痛みが生じた場合、直ちに医師の指導を受けてください。
- 不適合が生じた場合や変形、磨耗、異音が生じた場合など、装具の異常は、身体を傷つけることがありますので、異常を発見した場合は、直ちに弊社までご連絡ください。
- 装具の機能操作は確実に行ってください。（特に継手部分の固定、解除の際には確実に操作してください。）
- 装着の際は、ベルト、紐等により適切な締め付けを行い、正しい位置を保持してください。
- 下肢装具の場合、底材が摩耗したときに、早めに修理をご依頼ください。



注意

誤った使い方をしたときに、使用中に不具合を生じ、障害を負ったり物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- 装着や使用の際、継手等の可動部分で体の一部や衣服等を挟んだりして傷つける場合がありますので取り扱いには注意してください。
- 本製品は常温で使用、保管してください。（特に夏季の自動車の中など、高温で直射日光の当たる場所や、暖房器具の前に放置しないでください。）

お願い

面ファスナーを

（マジックテープ・クイックロン等）

しっかり押さえてご使用ください。

○面ファスナーはしっかり押さえる事で接着されています。

△不十分な場合、接着力が得られず危険です。

○ご使用の際は、しっかり押さえて（圧力をかけて）下さい。



KAWAMURA

コルセット・補装具 着用時のカイロ（貼るカイロ等温熱剤）の取り扱いについての注意点



カイロ等温熱剤は、直接コルセット・補装具に貼らないようお願いいたします。



金属部分（筋金部分）やプラスチック部分と身体との密着度が高い場所には、特に貼らないようお願いいたします。

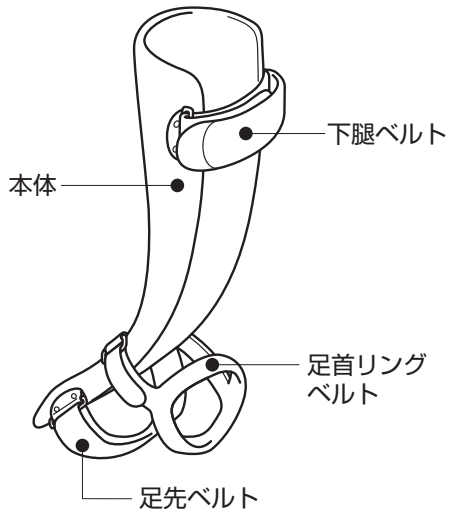


カイロ等どうしてもご使用される場合は、上記の事を守り、安全には十分注意をしてご使用ください。

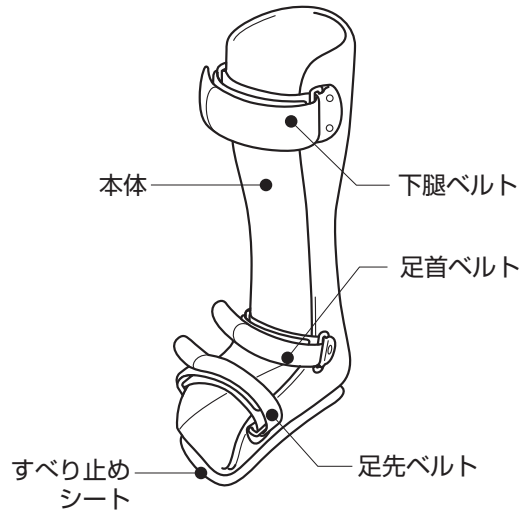
2. 各部の名称

本装具は次のような部品で構成されています。付属品に不足等はないか点検してください。

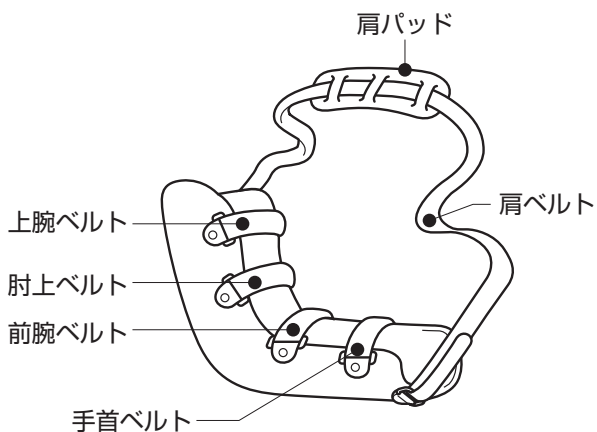
短下肢装具(背側シャーレ)
右片側/サイズ:S・M・L



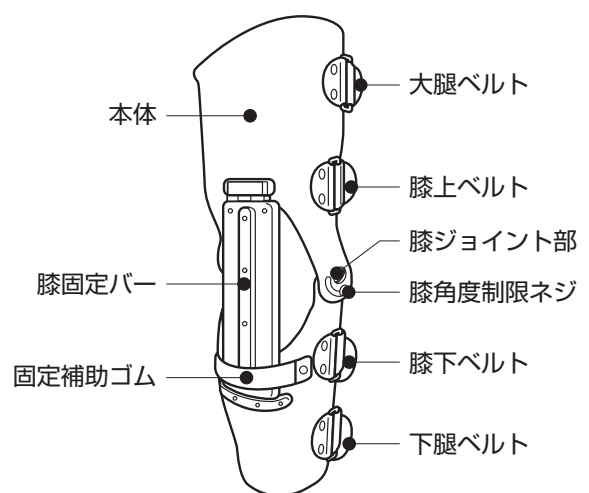
短下肢装具(底側シャーレ)
右片側/サイズ:S・M・L



肘装具
右片側/サイズ:S・M・L



膝装具
右片側/サイズ:S・M・L



3. 製品の特徴

「模擬体験装具」は、健常者が高齢者や障がい者の抱えるからだの不自由さを体験するために製作されたものです。老化現象、疾病や事故等による障がいの発生を模擬的に体験することにより、高齢者や障がい者が快適で豊かな生活を過ごせるよう、周りの方々の心配りのポイントを発見する装具です。

(本装具は大阪労災病院・積水化学工業(株)で共同開発されたものです。)

脳血管障害・脳外傷・脳腫瘍等による半身マヒ状態が体験できます。

右肘装具

肘の屈曲拘縮パターン(90°固定)を再現しています。

右膝装具

膝の伸展拘縮パターンを再現しています。

右短下肢装具

リハビリ前の状況を体験する背側シャーレと、リハビリ後によく使用される底側シャーレの2種類があります。それぞれ、足首の動きを制限しています。

	右短下肢装具 (背側シャーレ)	右短下肢装具 (底側シャーレ)	右肘装具	右膝装具
Sサイズ	足長23cm	足長23cm	上腕部最大周径 20~22cm	膝上15cmの周径 35~40cm
Mサイズ	足長25cm	足長25cm	上腕部最大周径 22~25cm	膝上15cmの周径 38cm~43cm
Lサイズ	足長27cm	足長27cm	上腕部最大周径 25~28cm	膝上15cmの周径 42~47cm

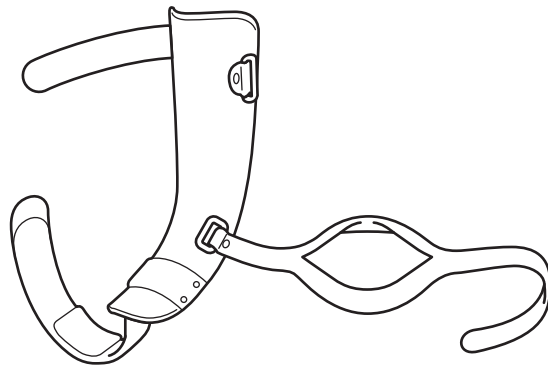
4. 装着方法

4-1 右短下肢装具（背側シャーレ）の装着

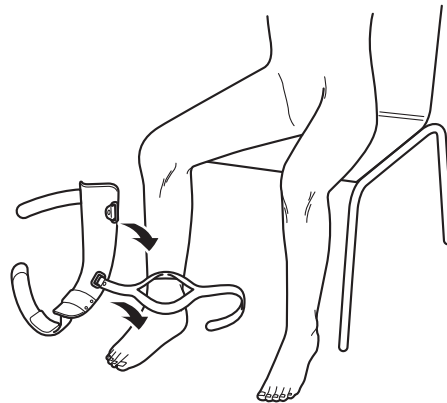
「リハビリ前」の状態体験用

①右短下肢装具（背側シャーレ）を用意します。

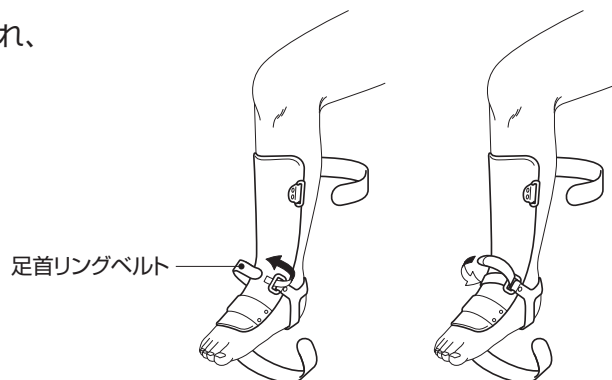
※「リハビリ後」の状態体験用は、4-2の
右短下肢装具（底側シャーレ）を装着してください。
併用はできません。



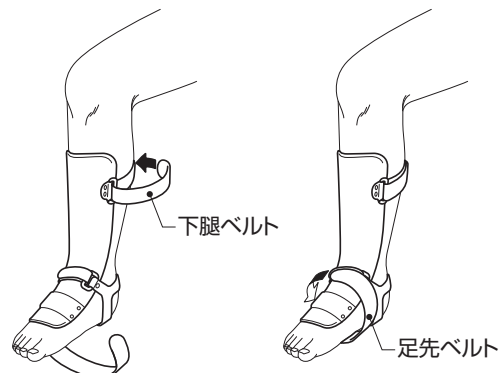
②椅子等（キャスター等のついていない物）に
腰掛け、右短下肢装具（背側シャーレ）を右足
の甲側に当てがいます。



③足首リングベルトの輪の部分にかかとを入れ、
マジックベルトで装具と足首を固定します。



④下腿ベルトを折り返し固定します。
次に、足先ベルトを固定します。



4-2 右短下肢装具（底側シャーレ）の装着

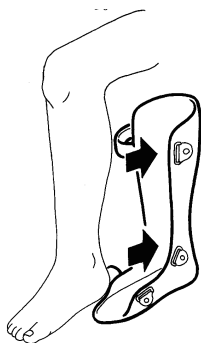
「リハビリ後」の状態体験用

①右短下肢装具（背側シャーレ）を用意します。

※「リハビリ前」の状態体験用は、4-1の
右短下肢装具（背側シャーレ）を装着してください。
併用はできません。



②椅子等に腰を掛けた状態で踵をしっかりと装具の奥深くはめ込み、足首ベルトで固定してください。



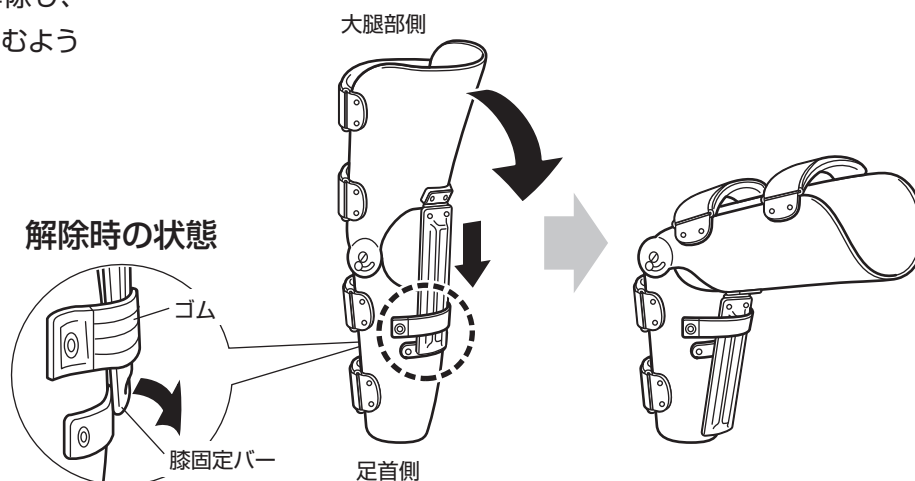
③次に、足首ベルト、下腿ベルト、足先ベルトの順番に固定してください。



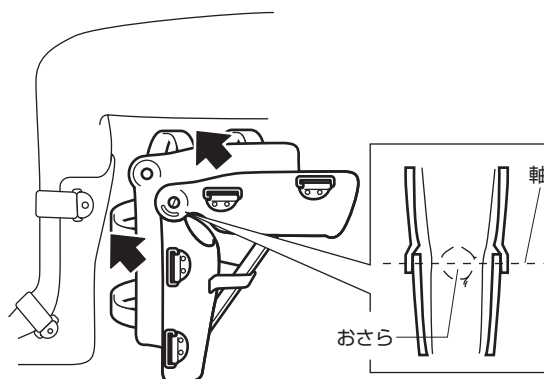
4-3 右膝装具の装着

①右膝装具を用意します。

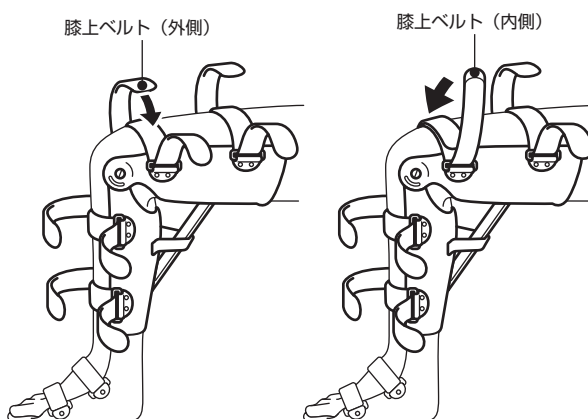
装着時は膝固定バーを解除し、
装具を膝のz軸で折りたたむよう
にします。



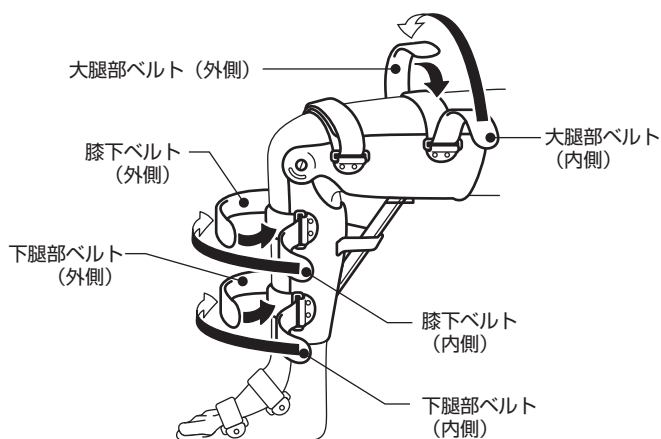
② 膝の関節軸（お皿の中心）と装具の軸が同じ高さになるように、膝の後ろから装具をはめ込みます。



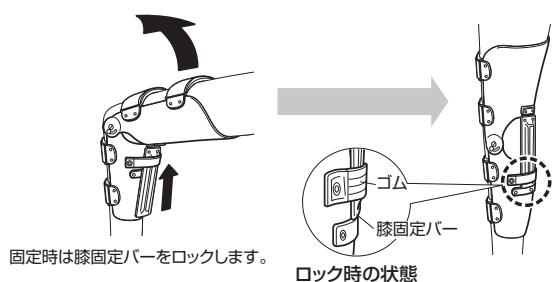
③ 膝上ベルトの外側のベルトを折り返し固定します。次に膝上ベルトの内側のベルトを折り返し固定します。



④ 膝下ベルト→大腿部ベルト→下腿部ベルトの順で③のように外側ベルトを折り返してから内側のベルトで固定します。

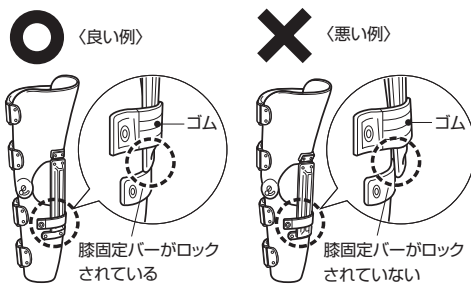


⑤ 付き添い人の介助を受けながらゆっくりと立ってください。最後に膝が曲がらないようにするために、膝後ろの膝固定バーをロックします。



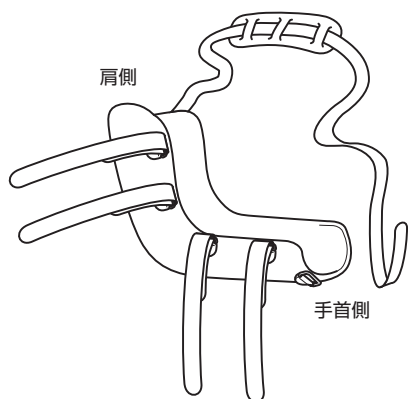
⚠ 注意

■ 膝装具を使用時に膝固定バーがきちんとロックされているか確認してください。

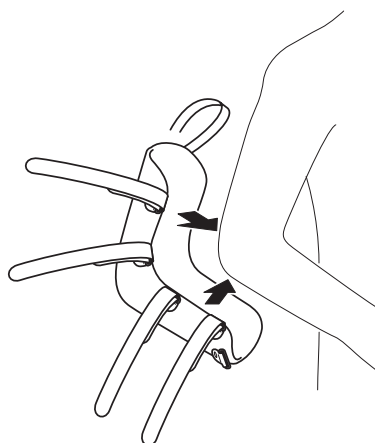


4-4 右肘装具の装着

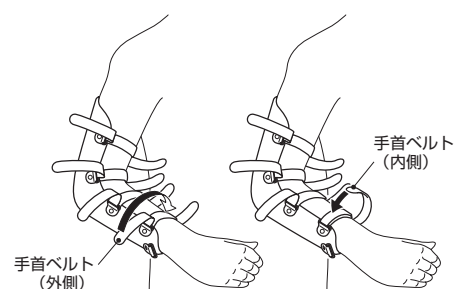
①右肘装具を用意します。



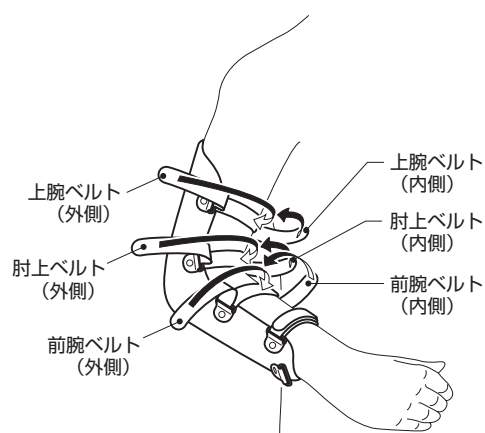
②装具の奥に右肘をはめ込みます。



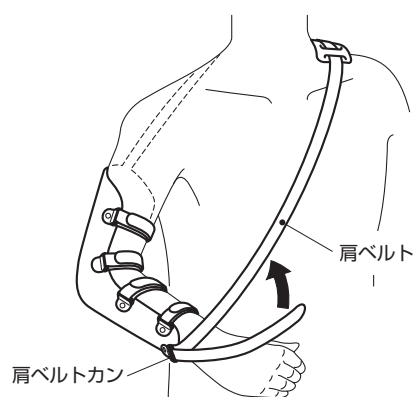
③手首ベルトの外側のベルトを折り返し固定します。次に手首ベルトの内側のベルトを折り返し固定します。



④前腕ベルト→肘上ベルト→上腕ベルトの順で③のように外側ベルトを折り返してから内側のベルトで固定します。



⑤肩ベルトを首の後ろにまわし、左肩を通して装具手首部にある肩ベルトカンにとめてください。



5. 使用方法

5-1 ご使用前の注意点



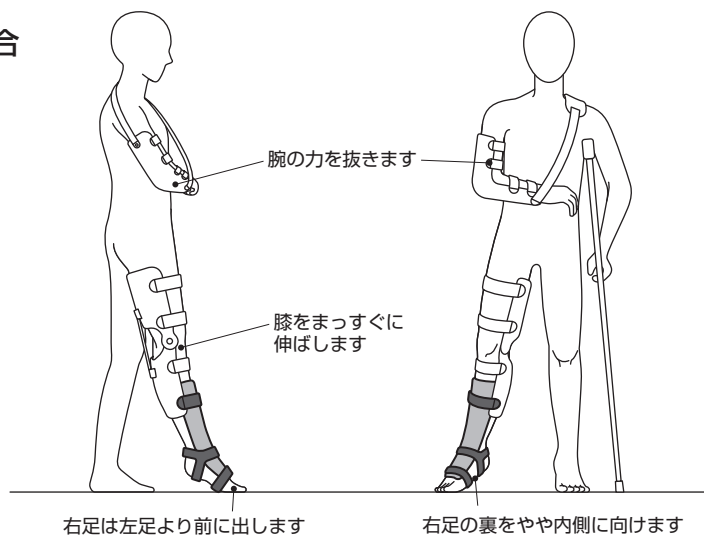
警告

- 装具装着中は身体の動きが制限されます。動作に危険や不安を感じたら、無理をせず使用を中止してください。
- 本装具の使用は必ず2人1組で行ない、使用者と付き添い人で役割分担し転倒等の事故防止に努めてください。
- 家具等使用中に転倒した場合に危険と考えられるものが周囲にないことを確認してからご使用ください。
- 階段やその付近で使用しないでください。転倒により、死亡または重傷を負う恐れがあります。

5-2 立ってみましょう

●右短下肢装具（背側シャーレ）装着の場合

この右短下肢装具（背側シャーレ）は「リハビリ前」の状態を体験することができます。片マヒの状態とは、自分の力では足を動かすことができず、足先が下がり足の裏も内側を向いた状態になります。つまり、右足先が下を向いているため右足を前に出した姿勢しかとることができず、両足をそろえて立つことができません。このような状態が片マヒ者のリハビリ前の姿勢の特徴の一つです。身体力を抜きリラックスした状態で、付き添い人の介助の下、短下肢装具の底全体を床につけて、ゆっくりと立ってください。杖をついたり、手すりを持つことで立ちやすくなります。

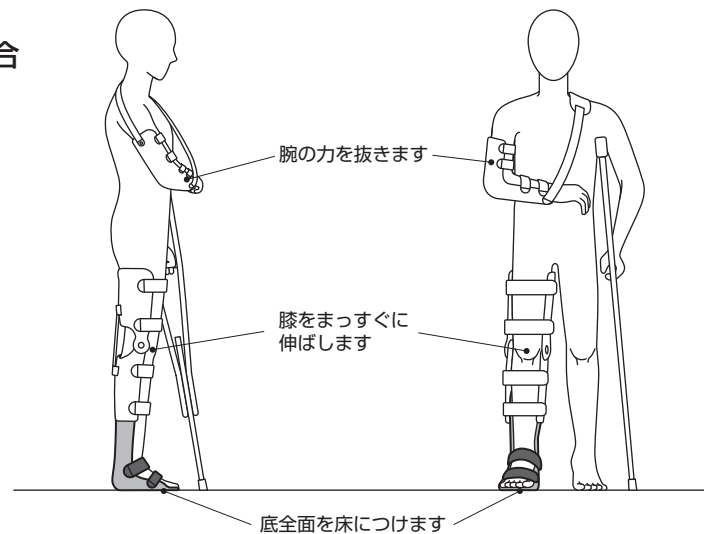


注意

片足立ちの状態になり立ちにくい為、無理な姿勢をとると転倒したり、装具の縁が足にあたって「装具ずれ」をおこしたりする恐れがあります。

●右短下肢装具（底側シャーレ）装着の場合

この右短下肢装具（底側シャーレ）は「リハビリ後」の状態を体験することができます。多くの方は病院でリハビリ（歩く訓練）を受けます。片マヒの方は自分の意思で足先を持ち上げることができないので、あらかじめ足先を持ち上げた状態に保つ装具をつけて訓練される場合が多いようです。この装具を装着していないと足はリハビリ前の状態になってしまいます。身体力を抜きリラックスした状態で、付き添い人の介助の下、短下肢装具の底全体を床につけて、ゆっくりと立ってください。杖をついたり、手すりを持つことで立ちやすくなります。



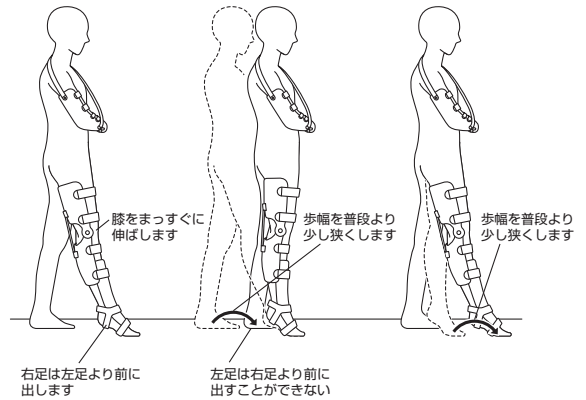
注意

立位の際は短下肢装具の底（すべり止めシート）全面を床につけるようにしてください。立ちにくい為、無理な姿勢をとると転倒したり、装具の縁が足にあたって「装具ずれ」をおこしたりする恐れがあります。

5-3 歩いてみましょう

●右短下肢装具(背側シャーレ)装着の場合

歩き始めると、「右足首を曲げること」、「右膝を曲げること」、「右手で杖や手すりを持ちたりすること」ができなくなります。また、足先が下を向いているため左足は右足より前に出すことはできず、常に右足を前に出さなければ歩くことができません。このような状態が片マヒ者の「リハビリ前」の歩行姿勢の特徴の一つです。身体力を抜きリラックスした状態で、付き添い人の介助の下、ゆっくりと歩いてください。左手で杖をついたり、手すりを持つことで歩きやすくなります。

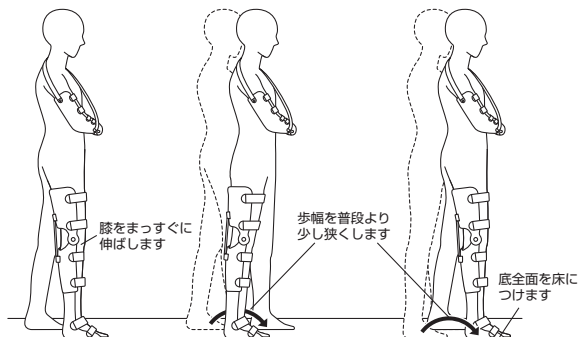


注意

●片足立ちの状態になり立ちにくい為、無理な姿勢をとると転倒したり、装具の縁が足にあたって”装具ずれ”をおこしたりする恐れがあります。

●右短下肢装具(底側シャーレ)装着の場合

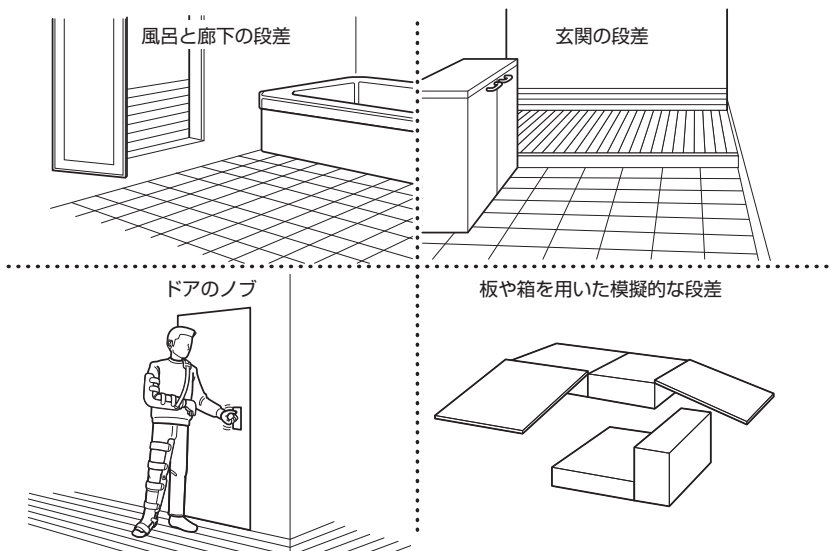
歩き始めると、「右足首を曲げること」、「右膝を曲げること」、「右手で杖や手すりを持ちたりすること」ができなくなります。また、足首、膝が固定されているので普段通りの歩幅で歩くことができず、どうしても歩幅の小さい歩き方になってしまいます。このような状態が片マヒ者の「リハビリ後」の歩行姿勢の特徴の一つです。身体力を抜きリラックスした状態で、付き添い人の介助の下、短下肢装具の底全体を床につけて、ゆっくりと歩いてください。左手で杖をついたり、手すりを持つことで歩きやすくなります。



注意

●歩行の際は短下肢装具の底(すべり止めシート)全面を床につけるようにしてください。立ちにくい為、無理な姿勢をとると転倒したり、装具の縁が足にあたって”装具ずれ”をおこしたりする恐れがあります。

こんな場所で片マヒ者の歩行を体験してみましょう。



警告

階段やその付近で使用しないでください。転倒により死亡または重傷を負う恐れがあります。



注意

段差を登る時

登る時は身体を後ろに向けます。左足(健足)の方を右足(マヒ状態)より先に上げます。

段差を降りる時

降りる時は身体を前に向けます。右足(マヒ状態)の方を左足(健足)より先に下げます。

6. 日常のお手入れ方法

汗をかいたり、装具が濡れたときは、風通しの良いところで陰干しをしてよく乾かしてください。マジックベルトの粘着力が低下している場合は、安全のため交換が必要となりますので弊社までご連絡ください。なお、毛玉等が付着した場合は、つまようじなどをマジックベルトの表面に滑らせて取り除いてください。

お肌に触れるクッション部分（布や革）の汚れがひどい場合は、ぬるま湯で湿らせた布などを押し当ててふき取ってください。

金属やプラスチック部分の汚れがひどい場合は、ぬるま湯で湿らせた布などでふき取ってください。

直接ぬるま湯などに装具をつけないでください。（金属部分にさびが生じる恐れがあります）

7. 材質

部品名	材質
プラスチック部	高密度ポリエチレン (サブオルソレン)
ベルト	牛革
マジックベルト	ナイロン
肩ベルト	綿

部品名	材質
すべり止めシート	塩ビ
内張りパッド	サンベルカ
カン	鉄+クロムメッキ
ベルトパッド	ネオプレーンゴム®

8. 廃棄方法

各自治体の指示に従い、廃棄処分してください。

9. 保証とアフターサービス

保証期間中は
保証書の記載内容に基づき修理させていただきます。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

 **川村義肢株式会社**

大東本社 TEL.072-875-8020 FAX.072-875-8041 〒574-0064 大阪府大東市御領1-12-1

東京本社 TEL.03-5635-1611 FAX.03-5635-1612 〒136-0073 東京都江東区北砂1-19-9

本書の著作権は川村義肢株式会社に帰属しており、許可なく本書の全てまたは一部を複製することはお断りいたします。